

JANNET 障害分野 NGO 連絡会

メールマガジン 第 250 号 8 月号 2024 年 8 月 30 日発行



—目 次—

トピックス

～第 22 回「リハ協カフェ」登壇報告～

1. ろう者の特性を生かした日本語教育

亜細亜大学留学生別科 非常勤講師/
明晴学園 非常勤講師
佐藤 啓子

2. タイ スタディーツアーに参加しての感想

筑波大学 人間学群 4 年
石丸 友那 (JANNET 学生会員)

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約 (UNCRPD) 締約国情報

イベント情報

1. アジアのワーカーと考える

～インクルーシブな地域をつくる当事者エンパワメントとは?～

2024 年 9 月 13 日 (金)

2. グローバルフェスタ JAPAN2024

★JANNET の「ブース出展」が決まりました! ★

2024 年 9 月 28 日 (土) ・ 29 日 (日)

トピックス

～第22回「リハ協カフェ」登壇報告～

1. ろう者の特性を生かした日本語教育

亜細亜大学留学生別科 非常勤講師/
明晴学園 非常勤講師
佐藤 啓子



佐藤 啓子氏（当日のご登壇の様子）

※去る2024年7月5日に開催した、（公財）日本障害者リハビリテーション協会主催『第22回「リハ協カフェ」』にてご登壇いただいた内容を、まとめていただきました。

ろう者に特化した方法を取り入れた「外国人ろう者対象の日本語教室」における実践についてご報告します。

①ろう者が日本語を学ぶとは？ ろう者にとって何が難しいのか？

ろう者が日常使用している手話と音声言語である日本語は大きく異なっています。「雨が激しく降る」という文の場合、日本語は順に単語を並べて表しますが、手話は「降る」という単語を表す手の動きを早くしたり回数を多くしたりして「激しく」を表すことがあるようです。また、手話では眉の上げ下げ、うなずきなどが文法を表すこともあります。

学ぶ方法についても聴者が日本語を学ぶ場合は何度も音を聞いてシャワーのように日本語が浴びることができます。一方ろう者は耳から自然に音が入ってくるということがなく日本語の文字からのみ学ぶわけです。外国人ろう者にとって馴染みのないひらがな・カタカナ・漢字から入ることが困難であることは容易に想像がつきます。

2-2. ろう者が外国語を学ぶ場合

例) アラビア語

音声を介さずに読み書き（文字のみ）で学習する。

اَسْلَامٌ عَلَيْكَ
アッサラーム・アライクム

⇒ 困難が伴う

右：当日の
PowerPoint より

②実際の授業で工夫した点

外国人聴者に第二言語として日本語を教える日本教育の方法は有効ですが、ただそれだけではろうの学習者には十分な効果が得られないと考え彼らの日常使用している手話を授業に取り入れること等を試みました。

・手話を効果的に取り入れる。

＊「バスで行く」「ペンで書く」の「で」はそれぞれ「乗り物に乗って」「使って」という意味だと手話で説明する。

＊動詞の活用（行って、食べて、読んで）を指文字で、文の意味を手話で確認する。

＊新しい文型の導入時にその場面の状況（いつその文型を使うのか）を手話で説明する。

＊手話でやり取りをしながら学習者にとって必要な語彙を探る。

・文型、語彙の数を少なくし意味の確認をしながら授業を進める。

・意味を表す漢字の方が記憶に残りやすいため漢字を積極的に使用する。

4-4. 受講生の感想

Aさん：手話を使った授業は本当に良かった。手話がなかったらスムーズに日本語の勉強が進められなかった。手話は大切だと思う。

Bさん：先生が手話ができるのでなるほどそうなんだと伝わる。コミュニケーションをとりながら学べるのがわかりやすくていい。

Cさん：生活の中で、子どもの学校や病院へ行くとき、通訳を頼まず、覚えたことを生かして、筆談でやりとりできるようになった。

当日の PowerPoint より

③結果

動詞の活用などは文字を見るだけではなく実際に手を動かした方が覚えやすいようです。また、文字と意味の結びつきが弱いために意味の確認が必要ですがその際に手話を使用することで時間が短縮されます。さらに学習者のわかる言語で説明されるので確実に理解ができ安心して質問もできるという利点があります。このようにろう者が書記言語を学ぶ上でハンディとなる点を補い手話を有効に使用することで概ね良い結果が出ました。

以上述べてきたようにろう者と聴者では書記言語を学ぶ方法が違っています。日本に住む外国人ろう者が聴者と同様に日本語を学ぶ場が増えることを願い、今後も外国人ろう者に指導できる教員の育成に注力していきたいと考えています。

2. タイ スタディーツアーに参加しての感想

筑波大学 人間学群 4年
石丸 友那

私は筑波大学人間学群障害科学類に所属し、障害や障害に関わる教育・心理・福祉・医療などの多領域から総合的に学んでいます。国際的な視野を持って学びを深めたいと思い、2024年4月に実施された野毛坂グローバル主催のタイへのスタディーツアーに参加しました。

ツアーでは、障害、貧困、コミュニティなど、ミクロからマクロまでの幅広い視点から、現場から政策レベルに至るまで学習しました。ここでは、特に印象に残った訪問先として、社会開発人間安全保障省障害者局、アジア太平洋障害者センター（APCD）、エイズ患者ホスピス、そしてロブリ県カオブラガム市での活動について触れたいと思います。

社会開発人間安全保障省障害者局では、「エンパワメント」というキーワードが強く印象に残りました。エンパワメントの重要性と、それを効果的に活動に結びつける必要性を学びました。

アジア太平洋障害者センター（APCD）では、「『障害』とは、社会に障壁があること」とあるという考え方を再確認しました。障害を個人の機能の問題ではなく、社会や環境のあり方が原因であると捉えることが、すべての人が生きやすい社会を構築する上で重要であることを学びました。



社会開発人間安全保障省で（前列左端が筆者）

エイズ患者ホスピスでは、「居場所」の大切さを強く感じました。過去には治療薬がなかったことや、薬が簡単に手に入らなかったため、毎日多くの人が亡くなったという事実を知りました。また、「自分の地域にいと差別を受けるからここへ来た」と語っていた入居者の言葉が心に残りました。共感し合える場所、人と関わり合える場所、そして安らぎと安心感を与えてくれる「居場所」の重要性を痛感しました。

カオブラガム市では、学生やボランティアと協力し、高齢者のいるすべての家庭の生活環境を把握し、支援が必要な人を発見して地域の人々と協力し、個々のニーズに応じた支援を提供する取り組みを行っていました。たとえば、寝たきりの男性を発見し、ボランティアと共同で支援やリハビリテーションを提供している事例や、地域社会全体で認知症の方を支援する取り組みなどです。これらの取り組みから日本も学び、日本に適した支援や政策を模索していくことが重要だと感じました。



カオブラガム市長や職員の方々と

このスタディーツアーを通じて、訪問先での学びに加え、異なる視点や専門性を持つ参加者からも良い刺激を受け、交流や意見交換を通じて人として成長できたと感じています。

ツアー全体を通して有意義な時間を過ごすことができ、訪問先の方々や仲間たちなど、タイスタディーツアーに関わったすべての人に感謝しています。

私は、今後大学院進学を考えていますが、これからも学び続け、すべての人が共に生きる社会づくりに少しでも貢献したいと考えています。



朝、食事をしながらのミーティングの様子



インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCRPD）締約国情報

(関連サイト：<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/right.html>)

署名国・地域数 **164**/ 締約国・地域数 **191** (2024年8月末現在)

https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=IND&mtdsg_no=IV-15&chapter=4&lang=en

イベント情報

1. アジアのワーカーと考える

～インクルーシブな地域をつくる当事者エンパワメントとは？～

2024年9月13日(金)

アジアの村々で、人びと自身による村づくりをすすめる AHI の研修生と一緒に、自らの活動と役割をふりかえり、次の一步を踏み出すアイデアを、探ってみませんか？

国際協力の現場で・日本の地域で、インクルーシブな地域をめざし活動している方、そのような活動に関心がある方のご参加、お待ちしております！

◆日時：2024年9月13日(金)
13:00～17:00 (受付開始 12:40)

※昼食希望で申し込まれた方は、
12:00 前に集合してください。

◆会場：アジア保健研修所(AHI)
(愛知県日進市米野木町南山 987-30
名鉄黒笹駅より徒歩 15分)

※現地集合、現地解散

(宿泊手配も各自でお願いいたします。)

JANNET 関係者には交通費の補助について個別にご相談させていただきます。

※Zoom によるオブザーブあり (グループ討議には参加できません)。

**アジアのワーカーと考える
インクルーシブな地域をつくる
当事者エンパワメントとは？**

アジアの村々で、人びと自身による村づくりをすすめる AHI の研修生と一緒に、自らの活動と役割をふりかえり、次の一步を踏み出すアイデアを、探ってみませんか？

日時 2024年9月13日(金) 13:00～17:00
(受付開始 12:40 昼食希望の場合 12:00前集合)

参加費 無料
場所 アジア保健研修所(AHI)
愛知県日進市米野木町南山987-30 名鉄黒笹駅より徒歩15分
Zoomによるオブザーブ有 (グループ討議には参加できません)

●使用言語 英語 (日本語通訳なし)
●現地集合・現地解散 (宿泊手配も各自でお願いします)
JANNET関係者には交通費の補助について個別にご相談させていただきます
●オプションセッション (希望者のみ)
翌9/14午後 研修生の保見団地訪問に同行
在日外国人が多く暮らす保見団地 (豊田市) を訪問し、多文化共生の取り組みを行うNPOや地域住民との経験交流を行います

AHI 研修生って？
7か国 (バングラデシュ・ブータン・カンボジア・インド・ネパール・スリランカ・ベトナム) から集まった 10名の地域ワーカーたちです。村々で、課題を抱える当事者主体の地域づくりをすすめています。取り組み分野や対象は、障害、栄養、気候変動、メンタルヘルス、難民、子ども、女性、少数民族、若者など研修生によってさまざま。お互いの活動・課題から学び合ったため、8/29-9/29まで AHI の参加型研修に参加しています。

国際協力の現場で・日本の地域で、インクルーシブな地域をめざし活動している方、そのような活動に関心がある方のご参加、お待ちしております！

共催 公益財団法人アジア保健研修所 (AHI) ・障害分野NGO連絡会 (JANNET)
問合せ：AHI事務局 tel: 0561-73-1950 e-mail: info@ahi-japan.jp

お申込はこちら

■アジア保健研修所 (AHI)
誰もが尊重されたいものを発掘し、生き生きと暮らせる社会に向けて活動するNGO。1980年設立。アジアの豊の恵で活動する現地ワーカーの育成 (人づくり) を行う。

■障害分野NGO連絡会 (JANNET)
障害分野の国際協力をしている日本のNGOのネットワーク。1993年設立。誰一人取り残さないインクルーシブ社会の実現をめざし研修会の開催、政策提言などを行う。

<https://forms.gle/AvbwbmWvN3bbSoudW6>

◆共催：公益財団法人アジア保健研修所（AHI）・障害分野 NGO 連絡会（JANNET）

◆使用言語：英語（日本語通訳なし）

◆参加費：無料（昼食を申し込まれた方は、当日 300 円をご持参ください。）

◆オプションセッション（希望者のみ）：

翌 9/14（土）午後、研修生の「保見団地」訪問に同行

（在日外国人が多く暮らす、豊田市の「保見団地」を訪問し、多文化共生の取り組みを行う NPO や地域住民との経験交流を行います。）

○AHI 研修生って？

7 か国（バングラデシュ・ブータン・カンボジア・インド・ネパール・スリランカ・ベトナム）から集まった 10 名の地域ワーカーたちです。

村々で、課題を抱える当事者主体の地域づくりをすすめています。取り組む分野や対象は、障害、栄養、気候変動、メンタルヘルス、難民、子ども、女性、少数民族、若者など研修生によってさまざま。お互いの活動・課題から学び合うため、8/29-9/29 まで AHI の参加型研修に参加しています。

2024年度国際研修参加者

テーマ：住民エンパワメント～持続的でインクルーシブな地域づくりを目指して～

期間：2024年8月26日～9月29日

		①名前（ニックネーム）	②団体名	③活動内容	④研修参加の動機
バングラデシュ	①モハメッド アベイド ウラー（アベイド）			②バングラデシュ社会の鼓動 ③ミャンマーから連れてきたロヒンギヤの人たちの難民キャンプや周辺の村々で、生活習慣病の予防・改善のための健康教育などを行う、保健ボランティアを育成している。 ④保健ボランティアの能力を高めたい。	
	②ヌルン ナハール（シヨマ）		②ダスコ財団	③ラジシャヒ県の保健センターのサービス向上のため、センターの運営や行政への提言を行う運営委員会の活動をサポートしている。 ④運営委員会が継続して活動できるようにしてほしい。	
ブータン	①ヨンテン ジャムツォ（ヨンテン）		②ブータン障害者協会	③障害のあるすべての人の教育・雇用・健康などの権利が保障される社会を目指して啓発活動や政策提言をしている。 ④障害者自身と、地域の人たちの障害への理解を深めたい。	
	①コンティア チェエップ（コンティア）		②シェア=国際保健協力市民の会	③プレアピビア州で、自治体と住民が協力して子どもの栄養改善を進められる仕組み作りをしている。 ④住民組織がもっと主体的に活動できるようにしてほしい。	
インド	①スワプニル サダシブ ヴァヴァハール（スワプニル）		②サティ（仲間の意）	③マーハラシュトラ州の少数民族の村で、子どもの栄養状態を良くするため、行政職員と住民の連携強化に取り組んでいる。 ④住民組織が継続して活動できるようにしてほしい。	
	①ヒマル デイレ（ヒマル）			②メンタルヘルス・カウンセリング・センター ③カルナリ県で、心の病を持った人びとの自助グループづくりや障害者の支援に関する政策提言をしている。 ④自助グループが継続して活動できるようにしてほしい。	
ネパール	①クシャマタ カドカ（クシャマタ）		②コピラ（つばみの鳥）	③ガンダキ県の少数民族が多く暮らす地域で自助グループをつくり、心の病を持った人びとや暴力を受けた女性のケアを進めている。 ④自助グループがもっと行政に要望を伝えることができるようになってほしい。	
	①シェリル ダヤンタ フェルナンド クルラスーリヤ（ダヤンタ）		②ベネディン開発サービス	③全国14の農漁村で若者が主体的に地域づくりに参加するために、若者のグループをつくり、リーダーシップ研修を行っている。 ④自分の団体のスタッフがもっと地域の住民の参加を促せるようになってほしい。	
スリランカ	①ピン タイ グエン（ピン）		②地域開発支援センター	③中部高原の少数民族が暮らす地区で、住民が中心となったマラリアや結核対策を進め、保健サービスへのアクセスを良くしようと取り組んでいる。 ④住民組織と行政がもっと協力し合える関係になってほしい。	
	①ハ ティ チュ（ピンキー チュ）		②アクションエイド ベトナム事務所	③気候変動に対応するため、持続可能な地域づくりに取り組む若者グループやリーダーの育成を全国的に行っている。 ④若者が組織を運営する力を上げたい。	

◆申し込み：下記 URL からフォームにご入力ください。

<https://forms.gle/LwbwbmwN3bbSoudW6>

◆お問い合わせ：アジア保健研修所（AHI） 事務局

tel: 0561-73-1950

e-mail: info@ahi-japan.jp

2. グローバルフェスタ JAPAN2024

2024年9月28日（土）・29日（日）



「グローバルフェスタ JAPAN」は、国際協力活動、社会貢献活動、SDGs などに取り組む国民様々な団体が一堂に会する国内最大級の国際協力イベントです。

今年のテーマは、“国際協力 70 年、ともに未来へ”

2024 年は、1954 年に日本が ODA を開始してから 70 年の節目の年。

国際協力 70 周年を迎える本年、第 33 回目になる「グローバルフェスタ JAPAN2024」は、昨年に引き続き、リアル（対面形式）とオンライン（配信形式）を両立したハイブリッド形式により開催します。

また、今年は、屋内のほかに屋外にも会場を準備しています。

出展団体によるブースを始め、多彩なゲストが出演するステージや体験イベント、様々な国の食事が楽しめる飲食・物販ブースなど盛りだくさん！

本フェスタを通じて、諸外国への理解が深まるとともに、より良い世界をつくるため、ともに未来へ向けて国際協力に参加する仲間が増えていくことを期待いたします。

★今年は JANNET の「ブース出展（新宿住友ビル 三角広場）」が決まりました！

ぜひ皆様、ブースに遊びにいらしてくださいね！★

<開催概要>

日時：2024年9月28日（土）・29日（日）10：00-17：00

開催テーマ：「国際協力 70 年、ともに未来へ」

実施形態：リアル（対面形式）とオンライン配信形式（特設サイト）を両立したハイブリッド形式

場所：リアル会場：【屋内】新宿住友ビル 三角広場
(〒163-0290 東京都新宿区西新宿 2 丁目 6 - 1)
【屋外】新宿中央公園 ファンモアタイムひろば (水の広場)
(〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2 丁目 1 1)
オンライン：下記特設サイトに当日オンライン会場を設置します。
「オンライン会場はこちら」ボタンよりご参加ください

入場料：無料

主催：グローバルフェスタ JAPAN2024 実行委員会

URL：<https://gfjapan2024.jp/>

事務局：グローバルフェスタ JAPAN2024 実行委員会運営事務局

株式会社ライノ ・コネクト

担当：齋木、小松

Mail：globalfesta_exhibit@plan-sms.co.jp

編集後記

8月お盆真っ最中に、インドネシアの古都と言われるジョクジャカルタにて、世界ろう連盟アジア地域代表者会議が開催され、全日本ろうあ連盟代表として中西副理事長と共に出席しました。

日本は 38℃を超える酷暑が続くなか、インドネシアはほどよい暑さ、ジョクジャカルタの高地は夕方になると 20℃をきる、熱帯地方とは思えない涼しさでした。

代表者会議にはアジア各地からきこえない仲間が集まり、一番の注目テーマはアジア女性部の立ち上げでした。来年を目途に発足できるよう私も協力したいと思えます。きこえない、女性の問題に課題が多く残されている事が分かります。

また大きく注目され、質問が相次いだのは、優生保護法問題、7月3日の最高裁判決内容でした。ニュージーランドでも問題が起こったと聞き及んでいます。優生思想をなくす運動を引き続き続けましょう。

(嶋本 恭規/JANNET 広報・啓発委員長)

JANNET 事務局では、会員の皆様よりメールマガジンに掲載する国際活動に関する情報を募集しております。団体会員様のイベント情報などありましたら事務局までご連絡ください。

JANNET 障害分野 NGO 連絡会

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会内

【JANNET 事務局直通】 TEL：03-5292-7628 FAX：03-5292-7630

URL：<https://jannet-hp.normanet.ne.jp/>